

不退転

第 67 号
東江中学校
校長 神元 勉

テンションを下げ、しっとりとした空間を!

廊下は静かに
歩きます!!



廊下や階段でも走らず、
静かに歩きましょう!!

せいじやくかん が
しっとりとした『静寂閑雅』なたたずまい
静かでひっそりとしていて、みやびやかな風情のあるさま

わ かんあい ご
『和顔愛語』できき合い つなぎ合い 支え合う
和やかな表情と親愛のこもった言葉づかい

地区陸上競技大会、合唱コンクール、読書月間、地区駅伝競走大会など、行事が目白押しです。行事が続くと、テンションが高くなりがちです。テンションが高くなると、ケガや事故が多くなります。

特に、給食後や清掃時のざわつきが気になります。廊下で、あるいは、教室から外に向かって、大きな声を出したり、清掃中もおしゃべりを我慢できなかつたり…。落ち着いた空間のある雰囲気作

りを意識してほしいと思います。授業中も、落ち着いた「テンション」で、適度な「反応の早さ」で、互いの顔を見合い、「聴き合う姿勢」を意識して、「しっとりとした学び」を築いてほしいと思います。

「早くお家に帰ろう」

時間外労働が月45時間を越えると、うつ病発症との関連性が強まると言われている。

もう一つ、過労死ライン。月あたりの時間外労働時間が80時間を超す状態が4〜5か月続くと危ない。また、100時間を越えるペーサだと、わずか1か月で過労死の危険が迫ってくる。

例えば、ある教師が、朝1時間早く出勤した場合、夕方5時以降毎日8時まで学校にいると、月20日勤務として、すでに80時間の時間外労働になる。もちろん、休日出勤を含めないでの話だ。100時間のラインだと、夜9時まで、どんなに譲歩しても、この時間がデッドラインである。(中略)

仕方ないと思わないでほしい。すべきことは、ただ一つ。最終的な退職時刻は午後7時、のつびきならぬ事情があっても、デッドラインを絶対に超さないという目標を徹底し、業務のスリム化を徹底することだ。子どもに早寝を訴える先生たちが、そんなに遅くまで学校に残ってはいけな

忙しいとは、心を亡くすと書く。心を亡くしてしまった人が子どもの前に立つなんて、とても悲しい。

佐藤 暁著「子どもも教師も元気が出る授業づくしの実践ライブ」学研より抜粋

■8日付け、沖縄タイムスは、次のように報じています。▼2014年度に病気休職した公立学校教職員(小中高、特別支援学校)の発生率は沖縄が2・86%で、全国平均(0・9%)の3倍以上と突出し、少なくとも8年連続で全国ワーストとなっていることが7日、県教職員組合(沖教組)の調べで分かった。うち精神疾患による休職が4割を占める。沖教組の山本隆司委員長は「教員は慢性的な長時間勤務や業務過多で心身ともに追い詰められている」と警鐘を鳴らす。

沖教組が2015年にまとめた教職員アンケート(1122人回答)では、1週間の超過勤務は平均23時間36分。1か月換算では平均94時間24分になり、教職員のほぼ3割が月80時間以上の超勤をしているとの推計が出た。

海外短期留学帰国報告

19日(水)、中央図書館AVホールで、「海外短期留学帰国報告会」がありました。山入端里南さん・仲地そらさんも堂々と帰国報告しました。

